



学年の総まとめと新たな準備のための3学期スタート!!

～ 当たり前前のごことが当たり前前ができる向陽生 ～

12月26日から始まった14日間の冬休みが終わり、1月9日、放送で3学期の始業式を行いました。冬休みはリラックスした時間を過ごすことができましたか。とは書いたものの、3年生は13日、14日に行われた大学入学共通テストや、その後に実施される各大学の入試に向けての勉強に、また、1・2年生は各教科から出された冬休みの宿題に追われていた人も多かったのではないのでしょうか。

元日の令和6年能登半島地震と、翌2日の航空機事故という波乱のスタートを切った2024年ですが、3学期始業式の校長先生の式辞の中で取り上げられた「東京箱根間往復大学駅伝競走」、通称「箱根駅伝」でも波乱がありました。駒澤大学の史上初の2年連続3冠（全日本大学駅伝、出雲駅伝、箱根駅伝の3大会での優勝）がかかった今年の箱根駅伝で、「負けてたまるか大作戦」を掲げた原晋監督率いる青山学院大学が往路3区で先頭に立ち、新記録での往路優勝。翌3日の復路でも、区間毎に駒澤大学との差を広げ、一度も首位を明け渡すことなく総合優勝を果たしたのです。

校長先生の式辞を少し補足させていただきますと、第100回大会を制した青山学院大学は今回を含めて7度目の優勝ですが、100回の歴史を誇る箱根駅伝で青山学院大学が初めて優勝したのが2015年の第91回大会でした。実に直近の10年間で7度の優勝を果たしたのです。しかしながら、青山学院大学が初めて箱根駅伝に出場したのが1943年の第22回大会。その後、出場とシード落ち、予選落ちを繰り返していましたが、その青山学院大学に転機が訪れたのが2004年の原晋監督の就任でした。しかし、思うような結果が残せなかった3年目、**人間性を度外視した走力重視のスカウトを行った結果、さらに成績を落としました。**その結果を踏まえ、翌年から**人間性重視のスカウト**を行い、就任から11年目の第91回大会で初優勝を果たしました。

(3学期始業式式辞抜粋)

原監督が言われている**人間性**とは、例えば、寮に住んでいる選手が外出するときには、玄関にある名札の裏表をひっくり返し、外出中にする。帰ってくれば又ひっくり返すというような**極めて単純な当たり前前のごことをきちんとできること**をさせているのだそうです。確かに、このことを実践していくと、日々の規則正しい生活が選手の体をつくり、計画的な練習で体力や技能を身に付けることができる。また、同時に選手と選手の信頼感が高まりチームとしての結束力が高まっていくというスタイルが生まれてくる。青山学院大学が箱根駅伝で大会新記録を樹立して優勝するという快挙を成し遂げることができたのは、**当たり前前のごことをきちんとするということが根底にあった**のです。

当たり前前のごことが当たり前前ができる向陽生

この言葉は、始業式や終業式、学校行事など機会ある度に校長先生が述べられてきた言葉です。現学年の総まとめであり、次年度に向けての準備でもある3学期、「当たり前前」という物差しで自分の行動を振り返り、改善すべき課題があれば、速やかに行動に移すようにしてください。

宮本次朗氏 ((株) 宮本工業相談役) から寄贈!!

本校の第17期卒業生(昭和40年卒)で現株式会社宮本工業相談役の宮本次朗氏は、在学中に軟式野球部に所属されていたことから、軟式野球部が使えるものを寄贈したいとの申し出があり、移動式グラウンド用ベンチシートを寄贈していただきましたので紹介させていただきます。各教室の本立てに「ジロー物語」を置いています。その著者が宮本次朗氏です。軟式野球部をはじめグラウンド使用クラブ等の活動で活用させていただきます。ありがとうございました。

